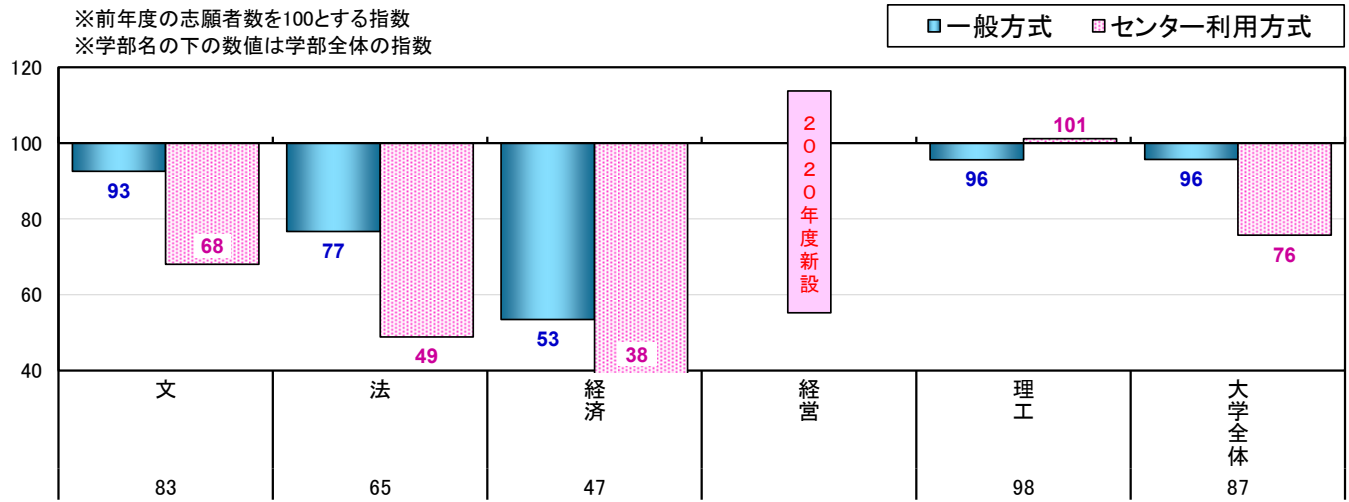


2020 年度入試状況分析【私立大】

成蹊大：前年度大幅増加の反動で2年ぶりに減少

一般：-625人 センター：-2,573人



入試変更点 学部新設：経営(総合経営)
 学科改組：経済(経済経営)→(経済数理、現代経済)
 選抜方法：文(英語英米文、国際文化)、法、経済(現代経済)、経営…<G方式>新規実施

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,198人(87)の減少。経営の新設、文系4学部での<G方式>新規実施があったが、前年度大幅増加の反動の影響が大きかった。2方式とも減少したが、特にセンター利用方式(76)は、文系学部の前年度合格者最低点アップの影響で大幅減少。

<一般方式>

- 文(93)は、やや減少で2年ぶりに減少。学科別では、(現代社会)(102)は微増したが、他の3学科は減少。特に(国際文化)(82)は大幅減少で2年連続減少。
- 法(77)は、系統への人気低下で大幅減少し、2年ぶりに減少。学科別では、(政治)(103)はやや増加で4年ぶりに増加だが、(法律)(65)は大幅減少。
- 経済(53)は、半減近い大幅減少だが、経営の新設で募集人員が約56%減少のため、志願倍率は22.8倍→27.6倍とアップし、競争は厳しくなった。
- 新設の経営は、志願倍率21.3倍と経済に次ぐ高倍率だった。
- 理工(96)は、2年連続大幅増加の反動は小さくやや減少。3学科全てが3年ぶりに減少。

<センター利用方式>

- 文(68)は、大幅減少。(現代社会)(94)はやや減少だが、他の3学科は大幅減少。(英語英米文)(51)はほぼ半減で前年度の反動による大幅な増減が継続。
- 法(49)は、系統への人気低下でほぼ半減し、前年度の反動による大幅な増減が継続。2学科とも大幅減少で、特に(法律)(39)は激減。
- 経済(38)は、激減。経営の新設で募集人員は約47%減少のため、志願倍率は43.3倍→31.2倍とダウン。
- 新設の経営は、志願倍率が45.7倍と全学部の中で最も高倍率だった。
- 理工(101)は、微増だが3年連続増加。学科別では、(システムデザイン)(96)のみやや減少だが、2年連続大幅増加の反動は小さかった。